

「蘭越町まち・ひと・しごと創生総合戦略」（原案）に係る ご意見の募集（パブリックコメント）の実施結果について

「蘭越町まち・ひと・しごと創生総合戦略（原案）」について、町民の皆様のご意見を参考とさせていただくため、パブリックコメントを実施しました。

ご意見の概要は、次のとおりです。

○意見の募集期間 平成27年12月11日（金）～12月18日（金）まで

○意見提出者数 10人

○意見総数 34件

○意見の概要

<主な意見等>

- ・花一会図書館の充実に関する意見
- ・（仮称）曲子光男記念館の必要性及び観光戦略とのつながりに関する意見
- ・子育て支援策に関する意見
- ・らんこし米等ブランド力・PR施策に関する意見
- ・起業化・企業誘致に関する意見
- ・文化、自然環境、温泉資源に関する意見
- ・その他、総合戦略全般(施策の立案等)に対する意見・提言

No.	意見等の概要
1	<p>今回の戦略案の中には、教育面、医療面は多少盛り込まれていたものの、「文化」面の充実が抜けていることに不安を感じます。都市部で、芸能・文化にも目配せが聞く、豊かな街の行政・・・とまではいなくても、せめて、「図書館の充実」などを盛り込んでみてはいかがでしょうか。</p> <p>蘭越の花一会の取り組みは、この近くの図書館・図書室の中では郡を抜いています。「今はなんとかなっているから」ではなく、長期的な目で町の将来と文化活動を並列に見て、図書室のさらなる充実などを盛り込むだけでも、子育て世代には、良いアピールになると思います。</p>
2	<p>都市部から離れるにつれ大型の書店も遠隔になり、情報の詳細な入手（インターネットやマスコミ情報以外のもの）は困難になります。</p> <p>現在の花一会図書館は、道立図書館からの書籍借り入れ、他自治体からの書籍借り入れなど、町民の要求に答えてくれていますが、所蔵書籍の内容充実や音楽、映像に関する分野、東西古典については、まだまだやるべき事があるように思えます。魅力ある町づくりの一環に、図書館の充実、サービス向上を是非考えていただければと思います。</p>

3	<p>蘭越の特徴を第一に考えて、そこに集中すべきである。温泉資源が重要であると思われるが、新見が外資に買収され、薬師も目途が立っていない状況では早急に対策が必要。</p>
4	<p>子育て支援はもっと思い切った施策が必要。他町村と横並びか少し上では意味がない。</p>
5	<p>曲子記念館は不要。知名度のない画家のどこに観光誘致の力があるのか。近隣の同様な施設の観光寄与度を調査したのか。貝の館その他の轍を踏まないようにしてほしい。</p>
6	<p>企業誘致策も他町村と比べて同程度。蘭越でなければならぬ理由がない。もっと特徴を。</p>
7	<p>このような取り組みを周知し意見を聞くのであれば、ホームページ発信で1週間しか期間がないのは殆どの町民が知らないまま終わり、あまり効果がないように思えるため改善していただきたいです。町民の多くが見てみんなで考えるには、もっと発信の仕方や期間から変えていくべきです。</p>
8	<p>17ページの曲子光男記念館は、町民に是非を確かめてからにした方が良いと思います。</p>
9	<p>19ページの子育ての支援は、町内外からの支援内容を広聴し、他町村にないサービスでニセコから昆布地区への子育て世帯を呼び込むのはどうでしょうか。</p>
10	<p>今回の戦略の中で、ぜひ取り入れていただきたいのは図書館事業です。移住定住で新しく町にやってくる人のほとんどの方は、まず花一会を訪れます。田舎暮らしをする方は、インターネットもご自身でなさる方も多いですが、本や情報を求めて図書館を利用するようです。</p> <p>「花一会」の活動は、まちに住む人訪れるひとの生活環境の向上（P13）や、まちの未来を担う子どもの子育て支援（P21）と密接な関わりがあると思います。</p>
11	<p>各施策を達成するためには、それを「しかけること」つまりコーディネートする人が必要になります。そして、コーディネートする人は、農業関係だけとか観光だけとかではなく、相互の幅広い情報を持ち、つながりを作っていける人が欲しいです。もちろん一人ではなく・・・</p>
12	<p>蘭越米をもっとPRするために「米1グランプリ」で、上位入賞した各県からの生産者さんのお米をネット販売するというのはいかがでしょうか。蘭越米だけでなく、全国のおいしいお米を食べ比べる。しかも、生産者の顔が見えるので安心安全を求める消費者は多いと思うのですが・・・「米1グランプリ」で付加価値をつけていけるのでは・・・</p>

13	<p>まず住民が、町の事についてもっと知ることが大切だと思います。日常的過ぎてあまり関心をもっていない事柄に目を向けてみることから、「町を知る」ことは始まります。私たち一人一人がまず、我が町を好きな住人になることだと思います。</p>
14	<p>それぞれの住民が、その興味にしたがって町を知ることができるよう「場」と「機会」を作り、住民が独自のハイキングあるいは宿泊ルートを考え、それを普通に楽しんでいるということになれば、自然に町外からも人が集まってくるのではないのでしょうか。なぜならそこに行けば、なんだか少し幸福そうな人たちが住んでいるのですから。</p>
15	<p>戦略2 施策1「町内の生活環境の向上」の部分に、図書館の設置を図ることを明記すべきである。</p> <p>これまで花一会図書館（図書室）は、今までも町民の文化的要求を満たしてきた。今後図書館として充実を図ることは、町の魅力を高め、地方創生にとって大きな意味を持つと考える。</p>
16	<p>戦略2 施策3「観光客など交流人口の増大」の部分に、蘭越町の豊かな自然の保全と活用を明記すべきである。</p> <p>蘭越には豊かな自然環境（コックリ湖、白樺山、硫酸山、ヘイケホタル生息地等）が残っている。それは町外の人にとって大きな魅力となる。</p>
17	<p>戦略3 施策2「子育ての支援」の部分に、蘭越保育所、昆布保育所の果たすべき役割について明記すべきである。</p> <p>これまで両保育所が子育て支援に果たしてきた役割には大きなものがある。今後いっそうの充実を図ることは、地方創生にとって大きな意味を持つと考える。</p>
18	<p>戦略2 施策3「観光客など交流人口の増大」の部分で触れられている（仮称）曲子光男記念館はどの程度の集客を想定しているのですか。</p>
19	<p>2 地方創生に対する基本的な考え方（1）蘭越町が取り組む地方創生の10行目から14行目で述べている部分の解釈ですが、「働く場の少なさや買い物・医療等の不便さを解消することは、都会のような便利さを求めた身の丈に合わない取組である」とも受け取れるのですが、違うのですか。違うのならばわかりやすく説明してください。</p>
20	<p>子供の教育分野にもっと注目してほしい。</p> <p>具体例のひとつとして、花一会図書館がもっと活用しやすい場になればと思います。今でも働いている職員の方々の努力によってきめ細やかな対応がされていると思いますが、図書館としての機能を最大限に生かし、教育推進の手始めとして花一会の更なる充実を戦略に入れていただけることを願います。</p>

21	<p>周辺の他町村の図書館施設と比較しても、花一会図書館の選書や展示は格上ではないでしょうか。早い話、本に対するセンスが素晴らしいのです。と同時に、今後のことが心配です。</p> <p>職員の確保やきちんとした待遇、図書館条例の整備など、良質な図書館サービスが継続出来るように計画を進めていただきたいです。</p> <p>現在、花一会図書館の運営に携わる方々の能力や意識の高さ、努力といったものを、出来る限りシステム化・施策化して、継続性を持たせるべきだと思います。</p> <p>蘭越のすべてのこどもたちは、この町の図書館を経験して育ちます。</p>
22	<p>もしも蘭越町もブランディングを考えていくのであれば、出来る限り自力で継続可能なものであって欲しいです。特に、デザイン的な考え方を重視して欲しいと思っています。</p> <p>蘭越町は、作物が豊かでたいへん美味であり、温泉資源にも恵まれています。環境的にも美しい山・川・海を有する、道内でも希少な素晴らしい町です。コンサルティング会社やクリエイターから見たら、実にブランディングを考えやすい地域ではないでしょうか。</p>
23	<p>P1 の地方版総合戦略の位置づけについて、5年も前に立案した「第5次蘭越町総合計画」を見直すことも無く、今回の総合戦略を「第5次蘭越町総合計画」との整合を図り、総合計画の下位計画として位置づける」というのは、いい方針とは思えません。「第5次蘭越町総合計画」の最終年度の目標人口は、「5,000人」ですが、すでにこの目標は破綻しています。</p>
24	<p>P3 の「PDCA サイクルによる目標達成評価」は、「第5次蘭越町総合計画」策定時にも謳われていた取り組みのはずですが、今の時点で何処に生かされているのか住民からはさっぱり不明です。</p> <p>現状認識、徹底した具体的戦略策定なくして、その後のDCAはありえません。「PDCA サイクルで、しっかりと情報公開までやっていく重点施策」を幾つか指定する、というのが現実的で実効のある考えだと思います。その意味では、あまりにも「多すぎる戦略」の印象です。</p>
25	<p>P4 の「地方創生のための重点戦略」で、地方創生のための3つの目標はもっともだと思いますが、しごとの場→ひとを増やすは、図で示されているような一方向とは思えません。この2つは同時並行にとり組むべきでしょう。今のしごとの中から、来訪者を増やすことは出来ます。具体的にはマルベリーが実績を上げている農業体験なども、立派に「訪れるひとを増やす」取り組みです。</p>
26	<p>P5 の戦略1「まちに仕事の間を増やす」で、数値目標が低すぎます。これは、今の産業の手直し程度しか考えられていないのではないのでしょうか。まったく手つかずの分野の産業振興も視野に入れるべきです。そうすれば、この数倍の創出は可能だと思います。既存の産業自体は、稲作を初めとして就業数は減少していくことがかなり濃厚です。この事を踏まえて危機感を持って考えるべきです。</p>

27	<p>P6の施策1「町のブランド力を高める」で、民間事業者のPR活動は支援しなくてもやって当たり前だと思いますが、宿泊施設に対しては外国人観光客向けのホームページの作成支援、外国人観光客へのサービスの勉強会の開催、アドバイザーの配置など、行政がやれることはあると思います。具体的な施策を挙げなければ「ブラン」とは言えません。</p>
28	<p>P6の施策1「町のブランド力を高める」で、「特産物のブランド化」は大事ですが、日本中でしのぎを削っている「ブランド米」競争の中で、「らんこし米」だけでは自ずと限界があります。「らんこし米」とならぶブランドを複合的に造れなければ、「らんこし」ブランドを打ち立てるのは難しいと思います。現在の予算執行も、「らんこし米」に偏っています。「蘭越グルメ」も意味は感じますが、「コメ」を離れた方がずっと拡がりが出るでしょう。</p>
29	<p>P8の施策2「基幹産業の事業領域の拡大」で、「①経営基盤強化による雇用の場の拡大」には、戦略と言えるほどの新味は感じません。「②新たな特産物の開発」も、同様です。「これ」と絞り込んだ戦略目標を出せなければ、ただ「広く浅く」お金を渡す、既存の政策の継承になると感じます。</p>
30	<p>P9の施策3「新たな産業の育成・誘致」で、「町内の人の起業は同様に支援する」としても、基本的には「この町に移り住んで起業するのなら、いろいろな面で支援する」ことを主軸に考えるべきです。町内者の起業が強く期待できる分野は、福祉を主軸とした「コミュニティ・ビジネス」でしょう。</p> <p>町外者の起業が、この町で育った人にも多くの刺激や前例を与え、起業が活発になることは期待してもよいことだと思っています。</p>
31	<p>P9の施策3「新たな産業の育成・誘致」の②「若者を惹きつける産業の育成」とありますが、「町内の空き店舗や空き事業所の活用」をうたいながら、多くの地域でとり組まれている「チャレンジ・ショップ」のような施策はみられません。「勧める」「活用」という言葉からは、具体性が感じられません。「戦略」レベルの提言とは思えない。</p>
32	<p>P10の施策4「町の産業を担う人材の育成」で、「女性、高齢者、若年未就職者の就業支援」をする前に特に感じる問題は、町行政が若年者を正規雇用しないことです。町外からの移住希望者は、いろいろな町村を見比べています。その中で、女性や若年者を正當に雇用することは、行政のチカラを大きく伸ばし、それに留まらずこの町のイメージアップに大いに貢献するでしょう。</p>
33	<p>P10の施策4「町の産業を担う人材の育成」で、「地域おこし協力隊」に関して、どれだけの実効があるのか疑問があります。この制度は有効に働くケースがないとは言えませんが、地域住民に比べて優れている人材がいるから、というよりは、「圧倒的に時間(暇)がある」ことが大きいと思っています。地域住民にも、現状を動かしていくためのアイデアを持っている人は沢山います。</p>

34	<p>福祉施設に関して、町の方針としては「市街地に集約する」方針と受け取りました。これは、各地域に分散して支援体制を作ることはコストも過大で困難である、ということだと理解しますが、どの地域にも当てはまることではないのではないかと感じています。総合戦略にも触れてありましたように「コミュニティビジネス」も視野に入ればいろいろな形態があり得るのではないかと感じています。その点に関しては、もっと時間を掛けて町民の希望を聞き、先進地の例に学びながら、模索していくことができるのでは、と思っています。</p>
----	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<コメントに対する考え方>

いただいたご意見については、12月24日開催の「第5回まち・ひと・しごと有識者会議」において、鋭意協議させていただきました。

最もご意見の多かった「花一会図書館の充実等」については、ご意見の趣旨を踏まえ、子供たちが多くの本に触れ、のびのびと読書や学習できる環境づくりを推進する観点から、子育て支援と密接な関わりがあるため、戦略3「まちの未来を担う子どもを増やす」中、施策2「子育て支援」の「②子育て環境の整備」内に、「花一会図書館の活用」についてを追記いたします。なお、花一会図書館の体制整備等については、図書館の三大要素である「人・資料・施設」の課題を引き続き検討し、当面する行政諸課題を十分踏まえた総合的な判断の中で取り進めていきたいと存じます。引き続き、町民の皆さんの理解が得られ、利用する方々に喜んでいただける「花一会図書館」となるよう努めてまいります。

また、(仮称) 曲子光男記念館の建設については、ご意見の趣旨を踏まえ、原案では観光資源としての位置づけとしておりましたが、有識者会議での議論を踏まえ、観光誘致への期待はもとより、子育て環境の充実により重きを置くため、戦略3「まちの未来を担う子どもを増やす」中、施策2「子育て支援」の「②子育て環境の整備」内に、「(仮称) 曲子光男記念館の建設」を振り替え、児童・生徒、未来の子どもたちへの文化創造の場として位置づけさせていただきます。なお、曲子光男氏は、日本美術展覧会(日展)の特選や京都府文化功労賞を受賞した本町出身の日本画の大家で、寄贈された70点の作品群は、本町にとっても貴重な文化的財産となるものです。後世に残すべき貴重な文化的遺産として、しっかり収蔵保管し、情趣豊かな素晴らしい風景画(日本画)の鑑賞機会を、町民をはじめ広く内外へ提供することで、町の芸術文化活動、児童・生徒たちの情操教育の推進に努めてまいります。

その他、子育て支援、文化、自然環境、PR施策、総合戦略全般(施策の立案等)に対するご意見・ご提言が多数寄せられました。これらの事項につきましては、必要に応じて文言等を整理するとともに、今後、個別の施策を推進する際の参考とさせていただきます。

蘭越町まち・ひと・しごと創生総合戦略(原案)に対し、ご意見をお寄せいただきありがとうございました。